

### **湿地—入谷集落の水田**

南三陸の入谷集落には、数多くの里山があります。里山とは、山林の端と小規模の農耕コミュニティが重なり合っており、自然とともに暮らすことに重きが置かれる地域のことです。入谷はかつて金鉱で栄えましたが、今日では、（美しい棚田が示す通り）稲作および牛の飼育を中心に行っています。

稲の苗は春に植えられ、初夏には田に水が張られます。稲は夏の終わりに穂をつけ、秋に収穫されます。季節に応じて、入谷の水田は多様な野生生物のすみかにもなります。アマガエル、ニホンアカガエル、毒を持つアカハライモリ、ヒルは皆、典型的な夏の住民です。水を張った田にはゲンゴロウ、ガムシ、ミズカマキリをはじめとするさまざまな昆虫も見られます。